脳・神経センター・リハビリテーションセンター

長崎北病院 伝言板 11月号

令和7年11月1日発行

11月。秋は何処へ。いきなり寒い。初冬の雰囲気です。寒さに耐えかねて部屋のエアコンを入れると冷風。親機が「冷房」のまま。慌てて「暖房」に変更してもらいました。 朝　庭に出ると「金木犀」の香りが。別名「Fragrant olive: 良い香りのオリーブ」と言われるように　秋　9-10月に花が咲き、香ります。今年はずっと花が咲かず、香らず。 暑さで咲けなかったようですが、急な寒さで慌てて登場。金木犀の香りはかろうじて秋。



金木犀（Fragrant olive）

夏からいきなり初冬。秋は省略？。しかし、煌（きら）めくススキの穂、風に舞う落ち葉の音、栗ご飯や柿、金木犀の香り。五感で感じれば秋がちゃんとそこにいます。今朝は小雨でした。外に出た途端、「あ！金木犀がやっと」。雨上がりは特に薫るようです。「金木犀雨後ことのほか匂ひけり」、「雨上がり馥郁（ふくいく）満る金木犀」などという句もあります。遅れていた金木犀。やっと咲きました。雨なれど少し嬉しい朝でした。



先日の夜、田舎道を車で走っていたら、よく太った大きなイノシシが目の前をゆっくりと横断。慌てる様子もなく草むらに消えていきました。ぶつかれば私の車の方が大破でしょう。ある職員さんから自宅の庭のフェンスの外の草むらにイノシシが6匹お揃いになった写真を見せてもらいました。親子でしょうか。元は「ウリ坊」かもしれませんが写真では立派に成長していました。イノシシは多産。どんどん増えているようです。我が家の畑でも数年前に収穫直前のサツマイモを「完食」されました。怒りに燃えて狩猟免許を取って芋の仇を取ろうと考えました。でもよく考えると、罠にしろ猟銃にしろ、もし獲れたらどうするの？という問題に直面。解体して「牡丹鍋か焼肉か」という元気はない。あえなく断念。悔しいけど破られたフェンスの強化で対応しました。当院の駐車場でも親子のイノシシが目撃されました。イノシシに「噛まれた」「突き飛ばされた」という報道はありますが、幸いなことに重症や亡くなった方はあまりいないようです。10年以上前はオレンジ色のベストを着た猟友会の人を見かけていましたが最近は見ません。高齢化もあって少なくなっているのでしょう。耕作放棄地が増え、狩猟者は減る。防護柵や電気柵で侵入防止はできても数は増える。数が増えればイノシシに寄生していて振り落とされる「マダニ」も増えます。近年、マダニ由来の感染症（SFTS, 日本紅斑熱など）が増えているのはイノシシの増加と無縁ではないでしょう。イノシシを減らす即効性のある方法はないようです。食べるしかない？イノシシ天国は続きそうです。イノシシはまだマシ、九州でよかったと思う今日この頃です。本州や北海道では連日クマの被害が続いています。こちらは大怪我や死亡事故が多発しています。イノシシは「猪突猛進」と言われるように避ける、逃げるで何とかなりそうですが、クマは別格。アメリカの「特殊部隊」やシュワルツェネッガーが戦った「プレデター」に例える人もいるように神出鬼没。時速60キロで走り、木に登り、泳ぎ、腕力は鉄筋をへし折る。嗅覚、聴覚は抜群、知能も高い。さらになんでも食べる。まさにスーパーアスリート。こんなハイスペックなクマと遭遇すれば人間はひとたまりもない。「毛がなく、柔らかくて、動きが遅く、弱っちい」動物。場合によっては獲物に過ぎない。自分がその場所に住んでいれば恐怖しかなかろう。クマとイノシシは影響は違いますが、いずれも数が増え、生活圏が交錯してきたのが原因の一つでしょう。数を減らす、管理する、分離する。個人では逃げるしかできない。民間任せではなく、行政が、予算や人をしっかり注ぎ込んでとりあえずではなく、本腰を入れて対応しないとどうしようもない状況。自衛隊より「クマ隊、イノシシ隊」を。当院でも駐車場に「車とイノシシに注意」の看板が必要ですかね。（A.S.）

